

フィデル・テクノロジーズ(株)

Start to goal, Fidel to you!

Fidel Technologies – www.fideltech.com

Fidel Localization services – www.filose.com

第23回JTF翻訳祭 (時間)13:30~14:30(60分)
プレゼン・製品説明コーナー セッション4
「フィデル・テクノロジーズ(株)について」

フィデル・テクノロジーズ(株)
Senior Localization Manager

坂地 笛子

sakachi@fideltech.com

2013年11月27日



フィデル・テクノロジーズ

母体は IT開発会社

翻訳

- ・ 日英、英日、インド、アジア言語
- ・ 60ヶ国語以上、対応可能

DTP

- ・ 自社内で多言語DTP可能
- ・ ツール、ソフトの対応力高い

テスト

- ・ ITは専門、日本語仕様書対応可
- ・ 自社内モバイル環境構築も可



御社はまだ

「英語」にネイティブ・チェック？

インドの英語は欧米でも
「ネイティブ同様」と認識

スムーズな
多言語展開

冗長なネイティブレビューは不要



翻訳全体へのコストダウン



対応ツール

• Trans Tool

- SDL TRADOS
- SDLX
- Idiom Desktop Workbench
- Catalyst
- Alchemy
- Passolo
- Transit
- Deja Vu
- Wordfast
- Tra Tool

etc.

• DTP Tools

- Adobe Acrobat CS4
- Adobe FrameMaker 7, 8 & 10
- Adobe InDesign CS3&4, CS5.5, CS6
- Adobe Illustrator CS3&4, CS5, CS6
- Adobe PageMaker 7
- Adobe Photoshop CS3, CS4, CS6
- Adobe Captivate 5.5
- AutoCad 2010
- RoboHelp 7, 8, 9 & 10
- EPUB 3.0
- Corel Draw 11, X3, X5
- Macromedia Flash CS4, CS5, CS6
- Microsoft Office(Word, PowerPoint)
- Others

増加する「日本語化需要」

- 
- 
- 
- ・欧米のみならず
 - ・中東、アフリカ、アジア各国
からの依頼増加
 - ・インドからは非常に近い国々

業務急拡大中につき、大募集中！

honyaku@fideltech.com

- 翻訳者
- 通訳
- コーディネーター
- 英語ITエンジニア

弊社インドチーム ご紹介



PM、翻訳、
QAチェック
チームメンバーは
日本語が通じます

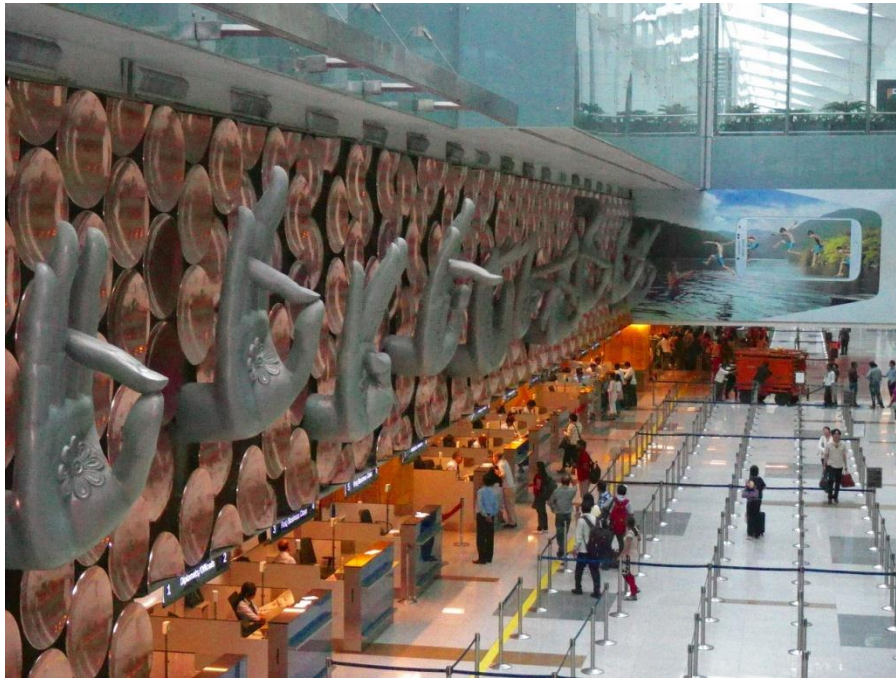


弊社 プネ・オフィス



オフィスは
かなり普通です。

インド・デリー 成田空港より近代的



ものすごい開発ラッシュ

現在のインドは 野良牛の方が珍しい



ショッピングモールは、ららぽーと状態

日本法人 フィデル・テクノロジーズ(株)

お時間いただき、ありがとうございました

- 競争力のある価格
- 評価される品質
- 信頼できるコミュニケーション

JTF2013- 大翻訳時代とインド

フィデルテクノロジーズ(株)

スニル・クルカルニ

Sunil.kulkarni@fideltech.com

www.fideltech.com

www.filose.com

◆ フィデル・テクノロジーズ概要



ビジネスソリューション・プロバイダー、技術コンサルティング

趣旨

- 顧客ニーズに合った IT サービス提供
- 顧客、投資者、社員間で利益共有。

サービス

- ITサービス(アプリケーション開発・保守・インフラサポート)
- ローカライズ(各種翻訳、多言語化、テスト、DTP業務等)
- CLOUDサービス開発(www.evaluateapps.com, www.india-gateway.com)
- ビジネス・プロセス・アウトソース(BPO)(その他等)



フィデルテクノロジーズ株式会社

設立:2001年7月

資本金:1,000万円

銀行:東京三菱銀行

主要株主:創業者

開発/ローカライズセンター

インド:マハラシュトラ州プネ市

代表取締役:スニル クルカルニ

経営者履歴

代表取締役:クルカルニ スニル

2007: フィデルコンサルティング設立

2001: フィデルテクノロジーズ設立

2000: アジアネット株式

1999: CTCシステム(日本会社経由)

1997: 本田技研(宇都宮:インド会社経由)

1994: コンピュータービジョン株式会社

ローカライズ部門詳細

項目	詳細
サービス	翻訳(和英、英和、和ーインド語)、TM作成支援、ソフトウェアのローカライズ(多言語化テスト)、DTP、通訳等
ツール	翻訳支援ツール(TRANADOS, TRANSIT, HYPERHUB等), DTPツール(Indesign, MS Windows 系)
言語	Jp-EN, EN-JP, JP-IN(インド語), その他(中東、東アジア等)
業界	IT、エンジニアリング、電子機器、家電メーカー、その他
顧客	IT会社様、LSP様、メーカー様
特徴	<ul style="list-style-type: none">●インドで140名の体制●インドでTRANADOSの販売代理店及びトレーニングセンター●短期間でかなり大きいボリューム実施できるインフラ/体制●様々な分野の経験●ローカライズと一緒に現地でインド市場開拓サポートも提供

翻訳ボリュームの増加

- * グローバル企業でデータが増加。
- * 企業コンテンツ、ユーザ作成コンテンツ(ソーシャル・メディア、ユーザ・レビューなど)、センサー作成のデータ(例、温度、スピード)等のリアルタイム翻訳ニーズも増加。
- * 市場が変わり、かつての最初はローカル、その後グローバルのコンセプトが減少し、グローバルがローカルになっている。(Line /Twitter/FB all planned for global expansion from the beginning)

Data growing at 650% and by 2020 1/3rd of this data will flow thro cloud

Individuals create 70% of data and enterprise store 80% of its data – Big data paper

http://www.csc.com/insights/flxwd/78931-big_data_universe_beginning_to_explode

翻訳でのチャレンジが変わった

- * 翻訳作業／プロセスが複雑化。
- * 言語／業務ノーハウだけで十分ではない。
- * 多様なツール／多様なファイルフォーマット／QAチェックの変化／MT技術などのノーハウも必要。
- * 顧客側も1つの言語ではなく、多言語のサポートが必要で、それで海外のベンダーとのやりとりが必要になっている。
- * 翻訳過程を再度見直しして、過程の一部は(PRE／POST)は外部、一部は内部分担する事でコストダウン狙い、インテグレーション作業も複雑。

LSPとしてのチャレンジ

- * 体制を最適化し、業務または技術または過程に特化してプレミアムチャージするか。
- * スケールアップして、多言語で数多くのボリュームをハンドルできるようにする。
- * 新技術、新過程、QAメカニズムを社内・フリーランサーにトレーニングする。
- * 翻訳以外に飲食、音楽業界等もすでにこの問題を迎えている。

大翻訳時代でインドが提供する ソリューション

- * スケールアップ(大規模)にインドは対応が可能。
- * プロジェクト・マネジメントのキャパシティと能力が有る。
- * 高コストの過程はマネジメントであり、そのコスト削減ができ、コストの厳しい案件にチャレンジできる。
- * インド人PMの英語は問題なく、グローバルなプロセスになれている。
- * インド・タイムゾーンが便利です、アジアとは2-3時間前で、ヨーロッパと6時間の時差、米国と11時間の時差があり、2シフトでほとんどのタイムゾーンをカバーできます。

インドは次世代PMハブ

- * インド人は代替トップからオーダーを受けられます。
- * インド人は技術、新ファイルフォーマット等のツールを早やく選択、活用できます。
- * グローバルなベンダーとのコミュニケーションが可能
(インドで2+1言語の教育モデルであり、代替のPMはBILINGUAL)。
- * 状況に応じ、各企業のプロセス等のトレーニングは当然必要です。

現在のインド

- * 急成長の国。
- * 途中のレガシー技術をスキップし、最先端技術へ。
メインフレーム無しでWEB化、電話線なしで 3Gなど
- * インターネットにより情報の共有化、同時性が普及。
- * 中級クラスの成長率が高い(IT、流通、製造系)。

日本企業の要求品質に対し生じる問題点 及び解決方法

- * コミュニケーション
- * 時差及び時間の価値感(インド時間)
- * 細かさ VS 動的アプローチ
- * プロセス過程

なぜインド？

- * 優秀な人材のスケール確保
- * 急速に進むインフラ改善
- * 高品質な教育体制
- * 低コスト
- * 研究開発における強み
- * 確立したテクノロジー集団
- * 技術・ツールに対する抵抗が少ない



Thank You !

- * 本日は貴重な時間を頂きありがとうございました。
- * 何かご質問とかありましたら、下記のメールアドレス honyaku@fideltech.com まで連絡お願いします。